

---

true melody

SABA

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

t r u e m e l o d y

### 【Nコード】

N 7 3 4 1 F

### 【作者名】

S A B A

### 【あらすじ】

最初は、シリアスみたいになっちゃたけど、一人の少年が新しい学校でいろいろまきおこす学園ラブコメです。

## 第0曲 過去と現在、（前書き）

初めての作品です。

至らない部分があると思うんで評価お願いします！！

## 第0曲 過去と現在、

5年前

「俺、絶対巧くなるから、頑張るからお前らも頑張れよ！」

「絶対だよ、約束だから！」

「泣いて帰ってきてても・・・知らねえからな！」

「・・・・・・・・」

俺はこの日、故郷と友達とゆう大切な全てをおいて野球とゆう道を選んだ。

野球の巧かった俺は、親や友達の反対をおしきって県外の野球強豪校の

付属中学に入学した。

みんな説得したつもりだったが一人だけ黙って何も言わなかったやつもいた。

でも、そいつには野球をしている俺を見せることが、最大の恩返しだと思っていた。

でも・・・それは昔の話。

現在

こんな日が来るなんて思ってもいなかった。

「はぁ・・・まさか帰ってくるとは、なさけねえ・・・・・・・・」

今、俺は昔すんでいた街の隣町に引越してきた。

別に昔のことがあるからここに来たわけじゃない。

つつか、昔のことは忘れた、俺は今に生きているんだ！！過去にはこだわらん！！

かっこつけたけど・・・

悲しいことにここを選んだのは編入試験の学力上の問題でだ。

で、急だけど俺の名前は 羽間 時人（はざま ときひと）

今年から高校二年生になるとこにでもいる平凡な人間だ

俺は今から始まる新しい学園生活を何事もなく健全にいききたいと思っ  
っている・・・

「俺、何に言ってるんだろ」

ひとり駅で悲しくなってきた。

今日は新しいアパートいっただらすぐ寝よ、

「はぁ・・・・・・・・」

今日、電車に乗り降りてから合計26回ため息をしたとゆう自己新記録を作ってしまった。

「はぁ」

これからの生活が不安でたまらない

この一週間で何回ため息つくんだろっなぁ。

**第1曲 人生の中で選択肢はいつも3つ（前書き）**

一週間に2、3回は更新頑張るので  
評価お願いします。

## 第1曲 人生の中で選択肢はいつも3つ

ピピピピ・・・ピピピピ・・・ピピピピ

さつきからアラームが鳴ってやがる

最後、「ピ」じゃなくて「ヒ」だったことをツツコムほど俺は敏感じゃない

いや、こういう事を考えていること自体が・・・・

考えていることがアホらしかったので制服に身を包み早めに家を出た。

俺は、転校初日から遅れるといったほど落ちぶれちゃいない。つつか、それがふつつかだろ。

「いきなり遅れてきた転校生」何ていうレッテルを貼られたくないでも、早く行ったところで俺は何をすればいいんだろう。

・  
職員室に行っても教師や校長と仲良くなるつもりはないし・・・・

はあ・・・・家で選択肢を間違った

- 1、家をすぐ出る
- 2、家を飛び出す
- 3、家から早急に退室する



……つつつか、俺には家を出る選択しかなかったのか。

そんなことを考えているうちに学校に着いた。

早めに来ている生徒は皆、掲示板の前に集まっている

「クラスわけか……」

皆たのしそうだなあ……

俺は今から職員室に行かなければならないというのに、

そんなことを思いながら重い足取りで職員室に向かった、

だがもちろん俺はこの高校のつくりを知らないよって職員室の場所が分からない

はあ…… 思わずため息が出た。

俺は必死に探したが、しかしそこまで世の中上手く出来ていなかった、

生徒に話しかけようとしてもみんなクラス替えてテンションが上がって

ことごとく無視されていた。

キーンコーンカーンコーン

「なにつつっ！！！」

・・・・・・予想通り

いろいろその後あり職員室にはたどり着きここまでの俺の軌跡を熱く語った。

10分後

教室内

ガヤガヤ、ガヤガヤ

「静かにー、席に着けー、今日から担任になった山田がくるぞー」

その一声でみんな静まり席に着いた。

「っお、このクラスは静かだなー」

そおいつて俺の前にいた先生は教室に入った。

「これから、お前らの担任になる山田だよろしく」

「急だが、転校生を紹介する」

教室内が騒がしかった

俺は一人、なぜ今？　なぜこのタイミング？と疑問に思っていた。

結果、これはムチャ振りというやつだろ、

一人勝手に答えを出していた……はあ。

## 第2曲 自己紹介を終えて、俺は成長した・・・

何て言えばいいんだろ・・・

こうゆう体験初めてなんだよな・・・

いや、ここはシンプルにいこう、うんシンプルに。

「えー俺の名前は、羽間 時人っていいます、これからよろしく。」

シーーーーー

見事にしらけた、なんか悲しくなってきた・・・

いや！ここはプラス思考に考えよう、じゃないとこれからやっていけない。

俺は「場を静める」を覚えた、（235%プラス思考）

「お前は、一番後ろにつけ」

「はい」

「っじゃ、みんな自己紹介しようか」

ありがとう先生！先生が何もいかなかったらまた変なスキル覚えるところだった。

10分後

俺は、席に着き自己紹介をきいている。

面白いことを言う奴もいれば、俺よりひどい奴もいる。

そんなことを考えていたら休み時間になり、俺の視界には人でいっぱいだった。

どこから来たの？とかいろいろきかれたが、答えるのが面倒いのでずっと

微笑んでいた、こうすれば大体のことはスルーできる。

ダンダンダン・・・

そおいやあさつきから廊下が騒がしいな、っと思っていたら

「時人——————どこにいる—————！」

！  
」

と、誰かに呼ばれた。

かなり鳥肌が立った、

やべえ・・・この声って・・・

俺は、今この世で2番目に会いたくない奴と・・・再会してしまった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7341f/>

---

true melody

2011年1月6日08時25分発行